

令和 7 年度

第 2 回 留萌市子ども・子育て会議議事録

開催日時：令和 7 年 1 2 月 1 日（月） 午後 6 時 3 0 分

開催場所：留萌市役所 3・4 号会議室

留萌市子ども・子育て会議

令和7年度第2回留萌市子ども・子育て会議議事録

開催日時 令和7年12月1日（月）午後6時30分

開催場所 留萌市役所 3・4号会議室

出席委員

子ども・子育て会議委員（順不同）

堀口 千晶	金子 麻綾	長谷川 桃子	峨家 麻美子
福士 恵里子	竹内 美和	和泉 美輪	塚田 崇
鳴海 智恵	長尾 保廣	佐藤 愛莉	中路 和也
鈴木 出	野呂 照幸		

以上14名

留萌市教育委員会事務局

教 育 部 長	吉田 博幸
子育て支援課長	中村 美幸
〃 子育て支援係長	加藤 尚規
〃 子ども家庭支援担当主査	佐伯 理恵
〃 子育て支援センター主査	松浦 恵子

（会議次第）

1 議 事

（1）会長・副会長の選任について

2 報告事項

（1）こども計画策定に向けたアンケート調査について（速報値）

（2）認定こども園等利用状況について

3 情報提供事項

（1）こども110番の取り組みについて

（2）春日児童センターの廃止について

4 その他（意見交換）

議事の概要 別紙のとおり

(別紙)

令和7年度第2回留萌市子ども・子育て会議 議事日程

日程	議事名	結果
議事1	会長・副会長の選任について	可決

令和7年度第2回留萌市子ども・子育て会議 議事の大要

議事について事務局より説明を行い、議事の可否を確認したところ、出席者14名全員の下承を得たことにより、留萌市子ども・子育て会議条例第6条第3項の規定により、可決する。

令和7年度 第2回 留萌市子ども子育て会議 議事録(要旨)

日時: 令和7年12月1日(月)18:30～

場所: 留萌市役所3階 3・4号会議室

出席者: 委員14名

堀口委員、金子委員、長谷川委員、峨家委員、福士委員、竹内委員、
和泉委員、塚田委員、鳴海委員、長尾委員、佐藤委員、中路委員、
鈴木委員、野呂委員
教育部長、子育て支援課事務局員

次第

委嘱状交付・市長挨拶

冒頭、中西市長より委員へ委嘱状が交付された。

【市長挨拶要旨】

- ・ 少子化対策として「子どもを産み育てやすい環境づくり」が各自治体に求められている。
- ・ 国の政策に統一感がなく、自治体ごとの負担や対応に差が出ている現状がある(例: 学校給食費の無償化における財源負担の問題)。
- ・ 留萌市としては、小学校給食費無償化など全国水準の施策に加え、屋内遊戯場「ちゃいるも」の平日利用促進やスポーツ教室活用など、既存施設を有効活用した独自の環境づくりを進めたい。
- ・ 行政の縛りをどう解決するかを含め、委員からの忌憚のない意見を求めたい。

1. 会長・副会長の選任

委員の互選(事務局案への承認)により、以下の通り選任された。

- **会長:** 中路 和也 委員(留萌スポーツ協会理事)
- **副会長:** 塚田 崇 委員(留萌市小中学校長会事務局長)

2. 報告事項

(1) 子ども計画策定に向けたアンケート調査について

事務局より、小学5年生・中学2年生とその保護者、および若者(高校生年代～34歳)を対象としたアンケートの速報値について報告。

- **概要:** 子どもの自己肯定感や将来への希望、経済状況による家庭での会話頻度の差、若者の引きこもり傾向や結婚観などについて調査。
- **今後の予定:** クロス集計を含めた確定版を作成し、次回2月の会議にて委託業者より詳細報告を行う。
- **質疑:** 特になし。

(2) 認定こども園等の利用状況について

事務局より、令和7年11月1日現在の利用状況について報告。

- **概要:** 定員に対しほぼ満員の入所状況。5年前と比較して未就学児全体で251名減少しているが、保育利用割合は増加している。待機児童はほぼ解消傾向。
- **質疑:**
 - **長尾委員:** 5歳児93名に対し0歳児が57名という数字は、将来的に学校存続に関わる深刻な状況ではないか。
 - **事務局:** 減少傾向は事実である。

3. 情報提供

(1) こども110番の取組みについて

事務局より、一般民家から事業所・店舗への登録切り替え(整理)状況について説明があった。

- **現状:** 高齢化や空き家増加に伴い、民家への駆け込みが困難なため、事業所等へ依頼しステッカー配布やマニュアル提供を進めている。
- **質疑:**
 - **野呂委員:** 実際に駆け込んだ事例はあるか。また、マニュアルや学校での指導はどうなっているか。
 - **事務局・塚田副会長:** これまでの駆け込み報告はない。事業所には対応マニュアルを配布済。学校では防犯ブザーの使用や大声を出す、すぐに大人に知らせる等の指導を行っている。

(2) 春日児童センターの廃止について

事務局より、春日児童センターを廃止する方針について説明。

- **理由:** 対象児童数の極端な減少(当該地区の通学児童 2 名)および、浄化槽更新に 1,000 万円超の費用が必要であり、維持することが難しいため。
- **対応:** 今後は港北小学校の児童室や施設を活用する。
- **質疑・意見:**
 - **長尾委員:** 廃止はやむを得ないが、理由として「浄化槽の費用対効果」を前面に出すべきではない。自治体は子どもが一人でもいれば金がかかってもやるべきであり、あくまで「子どもが減少し集団活動の効果がないため統合する」という教育的・環境的観点で説明すべきである。
 - **事務局:** ご指摘の通りである。児童数減少が主たる理由であり、丁寧な説明に努める。

4. その他・意見交換

- **「おさがり広場」について(堀口委員)**
 - **堀口委員:** 今年度、制服の取り扱いなど規模を拡大したが、需要と供給のバランスや保護者の反応はどうか。
 - **事務局:** 高校の制服は需要が高くすぐに無くなった。中学の制服やブラウスは残ったものの、ニーズは高いと感じており来年度も継続したい。
- **「こども誰でも通園制度」について(事務局)**
 - 来年度より本格実施予定。未就園児(生後 6 ヶ月～3 歳未満)が月一定時間利用できる制度。詳細は国の方針決定後、次回会議等で周知する。

5. 閉会

次回は2月頃に開催し、アンケート調査の確定報告を行う予定。

以上